

## 論文の内容の要旨

氏名：市川理恵

専攻分野の名称：博士（医学）

論文題名：医療事故における小児科医の感情因子に関する研究：全国データベースを用いた事例分析

### 【背景】

臨床の現場では医療安全のための様々な対策が行われている。しかし依然として多くの医療事故が起きている。医師は医療現場で複雑な意思決定と多様な業務を行っており、時にエラーが発生する。意思決定や行動は感情の影響を受けるため、感情因子がエラーの発生原因となっている可能性がある。本研究では、専門分野が多岐にわたり多彩な医療行為を行っている小児科領域での医療事故をモデルとして抽出し、小児科医の意思決定過程におけるエラー、および感情因子が医療事故の発生に与える影響について分析した。

### 【方法】

日本医療機能評価機構「医療事故情報収集等事業」による公開データベース上の医療事故事例を用いた。2010年から6年間にわたり累積された17,406件の医療事故情報のうち、当事者職種に医師が含まれ診療科が小児科である310件の事故事例報告を抽出した。小児科医、内科医、看護師、心理学者、医療統計学者から成る計6名の研究チームで報告書を査読し、小児科医の意思決定過程にエラーがあると評価された180件の事例を対象とした。患者の年齢、医師の経験年数、事故の程度、事故の場面、エラーのタイミング、および関与した感情因子について分析した。感情因子はPlutchikの感情分類を使用し、16の感情群に基づいて統計学的分析を行った。評価は6名の評価者各自が独立して行い、評価の一致が4名以下の事例は評価者間不一致事例として除外した。評価者間の信頼性はFleissのカッパ係数を用いて確認した。

### 【結果】

医療事故事例の58.6%(180/307件)が小児科医の意思決定過程にエラーを認め、そのうち91.1%(164/180件)の事例では、状況認識から判断までの思考段階でエラーが発生していた。意思決定過程にエラーを認めた事例のうち53.2%(84/158件)が、医療事故の発生に感情が影響したと判定された。事故発生に最も影響を与えた上位3つの感情は信頼、楽観、注意散漫で、感情が影響した事例のうち91.9%(57/62件)を占めた。Fleissのカッパ係数はいずれも0.61以上で「かなりの一致」を示した。

### 【結論】

小児科医の意思決定過程にエラーを認めた医療事故のうち過半数に感情因子が関与していた。最も多く医療事故に影響していた感情因子が信頼だったことは、正の感情であってもエラーの発生に影響する可能性を示している。医師の感情因子の分析とその管理技術の確立は、医療安全管理学における重要な研究課題であることが強く示唆された。